

新聞に親しもう～論理的思考力の育成のために～

三木市立豊地小学校 校長 大江 実代子
主幹教諭 揚田 祥子

1. はじめに

本校は、全校児童 55 名、学級数 6 (内、複式学級 1、特別支援学級 1) の小規模校である。学校教育目標「こころ豊かに たくましく学び続ける子の育成 ~やさしく かしこく たくましく~」を掲げ、日々の教育活動にあたっている。本年度の研究テーマを「論理的思考力を育成する授業の創造」とし、その具体的取り組みの一つとして NIE を推進することとした。実践指定 1 年目となる。

実践前アンケートによると、低学年 (1・2・3 年生) においては、ほぼ新聞に関心がなく、家庭で新聞を取っているか否かも知らない児童が少なくなかった。高学年においては、およそ 9 割の家庭で新聞を取っており、よく読む記事は、「事件・事故」「スポーツ」が 39%、次いで「番組欄」「まんが」33%、「地域・地元」「1 面」30%との回答であった。しかし、実際に児童とふれあって会話してみると、見出し程度の内容しか知らず、関心はあまり高くない感じが多くかった。

そこで、本年度はまず各学年の児童の実態に応じて「新聞に親しむ」「新聞を読む・記事をつくる」「新聞を活用する」活動を通して、論理的思考力を育成することを目標に取り組むこととした。以下に、その取組の一端を紹介する。

2. 学校として

(1) 実践についての共通理解

NIE 実践指定を受けるにあたり、教職員にも事前アンケートを実施し、研究推進

委員会及び職員会議において共通理解を図った。

(2) NIE 推進計画立案

児童の実態を踏まえ、各学年及び各教科・領域において推進計画を作成した。

平成 29 年度 NIE 推進計画

新聞に親しむ	1 年	国語・生活	「ことばあつめ」(カタカナで書く言葉を集めて分類) 新聞スクラップ 「しんぶんアート」(写真を集めてコラージュ) 新聞の読み聞かせ・記事紹介
		国語・生活 朝の会	「今週のニュース」身近なできごとを新聞の形式でまとめる 「今年のニュース」今年 1 年の自分の大きなできごとについてまとめて発表する。 「気になった新聞の記事について話そう」新聞の記事から気になったことを取り上げて、感想を話す。
新聞を読む・記事をつくる	3 年	国語・社会 理科・朝の会	「しりょうからわかる小学生のこと」 「気になった新聞の記事について話そう」新聞の記事から気になったことを取り上げて、自分の意見や感想を話す。 「わたしの 3 大ニュース」3 年生のできごとについてまとめて発表する。
		総合的な学習の時間 PLUS タイム 総合	「豊地は安全な町なのか!？」調べたことを壁新聞にまとめる。 「新聞記事を紹介しよう」見出し、要約、感想を伝える。 「二分の一成人式」生まれた年の新聞記事を読んでクロスワードパズルづくり スクラップづくり(自主学習ノート)
新聞を活かす	5 年	総合的な学習の時間 朝の会 国語 社会	「将来のしごとについて」インタビューしたことを壁新聞にまとめる。 新聞アプリを使った新聞作り 「新聞記事スピーチ」見出し、わかったこと、感想を伝える。
		PLUS タイム 総合的な学習の時間 国語	「新聞スピーチ」(起承転結の構成でスピーチする) 「平和のとりでを葉ぐ～今の私にできること～」(戦争や平和に関する記事を収集し、新聞作りに活かす) 「意見文を書こう」(2 社から同じ記事を取り上げ、読み比べて意見文を書く。)
共通			・新聞コーナー(図書室内)での自由閲覧 ・NIE 掲示板で学習活動の交流・啓発 等

(3) 環境整備

新聞受、自由閲覧コーナー、保管場所、NIE 掲示板の設置を行った。



《豊地小新聞係は
1 年生におまかせ》

(4) 記者派遣事業（4・5・6年生対象）

9月21日（木）、毎日新聞社神戸支局の佐竹義浩支局長をお迎えして、「新聞の作り方、記事の書き方」をテーマに学習した。はじめに、新聞社のDVDを視聴。続いての講演では、記事の書き方や見出しの付け方のポイントなどを教えていただいた。また、物の見方や考え方、事実のとらえ方と共に、隠れた事実を掘り起こし、問題点を指摘して世論を作るなど、新聞の役割についても分かりやすい具体例と共にお話をいただき、児童らは、興味津々で聞き入っていた。

翌9月22日（金）には、毎日新聞朝刊を児童数分届けていただいた。その中には、この講演会の様子がニュースとして写真入りで掲載されており、児童らは更に新聞を身近に感じるようになり、大喜びだった。



詳細 (http://www.miki.ed.jp/el/toyoti/index.cfm/1_1606_21.html)

(5) アンケートによる実践前後の実態調査及び分析（教職員、児童）

(6) その他

- ・NIEセミナーへの参加、研修
- ・新聞感想文コンクールへの応募
- ・授業など積極的な新聞活用

3. 各学年の取り組み

(1) 1年生

登校後、朝の準備が整うと、校門のNIEポストへ駆けていき新聞係の仕事を開始する。当初は、新聞と広告チラシの区別もつかない児童も多かったが、今では新聞の銘柄も分かるし、1面の写真を見れば「これ知っている。テレビニュースでやっていた」と話題にしていることが多い。読める

文字を一所懸命に読もうとする姿もよく見られるようになった。

また、小学生新聞を活用して、スクラップ学習に取り組んだ。



好きな記事、気になる記事を選んでスクラップし、意見や感想などを書き込んで、互いに紹介し合った。その後、自主学習でも取り組む児童が増えた。小学生新聞を購入して親子で読む家庭も出てきた。

(2) 2年生

国語科「今週のニュース」で、身近なできごとを新聞の形式でまとめて知らせる学習を行った。学習のはじめに、新聞を見て気づいたことを出し合った。「見出し」「写真」「本文」について大まかに捉えて、はがきサイズ大の新聞の形式にまとめてお知らせすることにした。知らせることが前提であるため、読み手を意識して文章を書くことにつながり、表現力を高めることにつながった。



また、「今年のニュース」というテーマでスピーチを行った。1年間の自分の大きなできごとについてまとめて発表するのだが、年末の新聞に掲載されている「今年の十大ニュース」を取り上げた。児童は十大ニュースの大半を知っており、新聞への関心が高まっていること、社会の動きに关心が高まっているこ

とがうかがえた。それに加えて、児童が取り組んでいる自主学習ノートでも、気になった新聞記事をスクラップし、記事について自分の感想や意見を述べるという学習をしてくることが多くなつた。

(3) 3年生

「気になった新聞記事について話そう」というテーマでスピーチを行うこととした。児童らが気になった新聞記事を持ち寄り、それについて自分の意見や感想を話した。学習を通して、新聞に关心がほとんどなかつた児童にも新聞に対する興味・関心が高まり、その後、気になった新聞記事について取り上げて自主学習ノートに意見や感想を述べる内容がよく見られるようになった。



また、環境体験事業で里山の動植物について学んだことを新聞の形式で伝える学習を行い、他学年に読んでもらうとともに、感想やアドバイスをもらうこととした。児童は作文の学習の時とはちがい、読む人に分かりやすくするにはどんな見出しがいいか、どんな順序で文章を書けばいいか、記事に合った絵や図は何がいいかなど、読み手をより意識する姿が見られた。その活動の中で子どもの気づきや学び合いが見られ、それが表現力を高めることができた。

(4) 4年生

「豊地の安全マップをつくろう」と題し、社会科、総合的な学習で調べ学習をしたことを見出し、写真など)を確かめ、取材の方法や記事の割り付け・構成などについても学んだ。

その上で、地域に出かけて「豊地は安全な町なのか」について、事件や事故・風水害・火災の三つの観点から調査をした。



それぞれが調べたことを記事にし、見出しつける活動を通して、一目で興味を引くような見出しへ考えたり、言いたいことが伝わるように文章を書いたりする姿が見られた。



まだまだ新聞に書いてあることを理解することは難しいが、見出しへ読んだり、キーワードに線を引いたりすることで、記事の要旨をつかむことができることに気づいた児童が多く、新聞記事をスクラップして、記事に対する感想を書くなどの自主学習をする児童が増えた。

(5) 5年生

神戸新聞社提供の新聞作成アプリケーション「ことまど」を活用し、自然学校で学習したことや、思い出を新聞で表現する学習を行った。

あらかじめ設定されているレイアウトを選び、新聞のタイトルや見出し、本文、写真などを入力したり、



選択したりするだけで本物の新聞のような仕上がりになる。国語科「新聞を読もう」や、NIE 出前講座で、新聞には見出し、リード文、本文があること、図や写真を自分の思いに合わせて選ぶことで、より記事の内容が伝わりやすくなることを学んできた。

今回の実践では、これまでの学習をもとに、自然学校での自分の成長や、思い出を新聞に表現した。アプリを使うことで、1枚の新聞を、複数で一斉に編集することができ、役割を分担することで待ち時間がなく、効率的かつ意欲的に取り組めた。また、パソコンを使って編集することで、間違っても容易に書き直しができ、スムーズな作業につながった。



(6) 6年生

国語科「未来がよりよくあるために」の学習の一環として、「二社の新聞記事を読み比べよう～私は新聞評論家～」という学習を行った。関心ある記事を選び、同日付の2社の新聞記事を読み比べて、どちらの新聞が気に入

ったか根拠をもって意見を述べる活動である。児童は、細かい箇所に着目し、違いを考えた。同じ内容でも新聞社により伝えたいことが違ってくることに驚きとさらなる新聞への興味を抱いたようである。

例えば、サッカーワールドカップの記事については、写真の撮り方によって伝えることが違うということ、国際的な政治問題の記事については、リード文や本文を読み解くことで、同じように見える問題でも着目している観点が違うということなどに気付いた。

その上で、自分がより魅力を感じた記事はどちらか、なぜそう思うのか、理由付けて意見文を書いた。



この活動を通して、見出しの書き方や数字の用い方、写真が伝えていることは何だろうかなど、より記事の細かい部分まで目を通すようになった。また、人に伝える文を書くときは、自分の思いを伝えるための工夫が必要であることをさらに実感したようであった。

4. おわりに

新聞は、子どもと世の中をつないでくれる。そして、学校で複数の新聞が読める環境は、ぜいたくで非常に有り難いと感じる1年であった。年度末アンケートでは、児童の44%が「新聞を読むようになった」と回答。68%の児童が、「新聞活用の授業は、興味・関心がもてる」と答えている。

2年目となる来年度には、さらに研修を深め、児童に生きて働く力となるよう新聞に親しませ、活用できる力をつけていきたい。